

令和5年度
岩内あけぼの学園

事業報告書

社会福祉法人あけぼの福社会

目 次

I. 利用者の状況	P3
1. 入退所状況	P3
① 岩内あけぼの学園(施設入所支援)	P3
② 岩内あけぼの学園(通所・生活介護)	P3
2. 居室と担当職員の状況	P4
II. 職員の状況	P5
III. 見学・実習生の受入状況	P5
IV. 研修の状況	P6
1. 職場外研修の状況	P6～P7
2. 職場内研修の状況	P7
V. 年間行事の実施状況	P8
VI. 生活支援の状況	P8
1. 社会生活活動の実施状況	P8
2. サークルとコンサート鑑賞の実施状況	P8
3. 避難訓練の実施状況	P8
4. 建物や設備の整備について	P9
5. 生活棟(別棟)えみしあの運用について	P9
6. 通院や入院への対応について	P9
7. 新型コロナウイルス感染症への対応について	P9
8. リハビリ支援について	P9
9. 行事の実施について	P10
10. 学校との連携と将来的な人材確保について	P10
11. 広域避難訓練の実施について	P10
12. グループホーム ラフォーレの支援について	P10
13. 在宅(通所)利用者の支援について	P10
14. 記録管理システムについて	P10
15. 障がい者虐待防止について	P10
16. 利用料収入と支援スタッフの確保について	P10～P11
VII. 食事提供業務の状況	P11
VIII. 健康管理の実施状況	P11
1. 日常生活における予防及び衛生	P11
2. 住環境の清潔と感染性疾患の予防	P11
3. 日常の健康管理	P12
4. 健康診断の実施と各種検診の受診	P12
5. 感染症罹患患者への対応について	P12
IX. 苦情解決について	P12
X. 日中活動支援の状況	P13
1. 活動グループの状況	P13
2. 各活動グループの活動状況	P13
① 生活介護Ⅰグループ	P13～14
② 生活介護Ⅱグループ	P14
③ 生活介護Ⅲグループ	P14
④ 生活介護Ⅳグループ	P15～P16
⑤ 生活介護Ⅴグループ	P16

I. 利用者の状況について

1. 入退所状況

①. 岩内あけぼの学園、施設入所支援利用者動向

月	現員	施設入所支援状況		異動の状況
		入所	退所	
4	49	1	1	S・Kさん(入所)、F・Mさん(4/28 付け退所)
5	49	1		I・Mさん(入所)
6	50			
7	50			
8	50			
9	50			
10	50	1		T・Kさん(入所)
11	51		1	I・Jさん(逝去)
12	50			
1	50			
2	50			
3	50		8	S・Hさん、M・Mさん、I・Kさん、U・Kさん A・Tさん、N・Yさん、E・Hさん、T・Kさん (3/31付け GH サービス切り替えに伴う退所)
合計	599	3	10	

②. 岩内あけぼの学園、(通所)生活介護利用者動向

月	現員	通所利用状況		異動の状況
		通所	退所	
4	9			
5	9			
6	9			
7	9			
8	9			
9	9			
10	9			
11	9			
12	9			
1	9			
2	9			
3	9		1	K・Aさん (3/31付け 施設入所支援サービス切り替えに伴う退所)
合計	108			

2. 居室と担当職員の状況(令和6年3月31日現在)

① 施設入所支援サービス利用者

利用者名 (男性)	担当職員		利用者名 (女性)	担当職員	
	担当	副担当		担 当	副担当
N・Rさん	H・S	Z・K	A・Tさん	F・M	K・N
S・Kさん	H・S	T・Y	I・Hさん	F・M	E・T
T・Kさん	H・S	S・R	M・Tさん	F・M	H・M
I・Hさん	S・R	K・M	I・Mさん	F・M	M・A
A・Sさん	S・R	U・K	K・Sさん	M・A	F・M
K・Hさん	M・T	Z・K	S・Mさん	M・A	U・Y
O・Sさん	M・T	M・R	N・Yさん	M・A	N・N
T・Tさん	K・M	M・R	S・Yさん	T・M	K・M
T・Tさん	N・S	H・S	E・Hさん	N・K	K・S
I・Kさん	N・S	T・Y	H・Eさん	N・K	U・Y
U・Kさん	M・Y	T・Y	O・Rさん	I・T	S・A
M・Mさん	M・Y	S・R	W・Aさん	I・T	N・K
K・Kさん	Z・K	S・R	W・Hさん	F・I	I・T
I・Gさん	Z・K	U・K	N・Kさん	F・I	M・H
M・Sさん	U・K	N・S	N・Hさん	S・A	K・M
S・Kさん	U・K	K・M	K・Yさん	S・A	T・M
M・Mさん	T・Y	M・Y	H・Hさん	U・Y	S・A
K・Yさん	T・Y	S・N	K・Kさん	U・Y	F・M
T・kさん	T・Y	M・T	K・Kさん	K・S	N・K
T・Mさん	T・Y	S・R	T・Kさん	N・N	M・A
S・Hさん	S・N	T・Y	I・Rさん	N・N	T・K
Y・Mさん	S・N	M・Y	Y・Hさん	E・T	I・T
T・Tさん	M・Y	M・T	S・Sさん	K・M	H・H
W・Tさん	T・Y	N・S	T・Kさん	K・N	F・I
Y・Tさん	M・R	H・S	Y・Tさん	M・H	T・M

②通所部（在宅日中活動サービス利用）

利用者名	担当窓口	副担当	利用者名	担当窓口	副担当
M・Hさん	H・S	S・N	D・Hさん	T・K	K・S
K・Tさん	M・T	Z・K	N・Kさん	H・M	F・I
H・Yさん	K・M	T・Y	K・Aさん	T・M	M・A
K・Kさん	U・K	M・Y	A・Tさん	K・M	H・H
S・Kさん	T・Y	N・S			

※個人情報の取り扱いにご配慮くださいますようお願いいたします。

<利用区分>

	施設入所支援	合 計	備 考
施設入所支援 利用者	男性 25 名 (24 名) 女性 25 名 (26 名)	50 名(50 名)	カッコ内は定員
在宅（通所）利用者	男性 5 名 女性 4 名	9 名	

Ⅱ. 職員の状況について

月	職員動向		異動の状況
	採用	退職	
4	3		S・N(採用)、T・Y(採用)、K・S(採用)
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3	1	2	K・M(採用)、M・Y(退職)、K・N(退職)
合計	4	2	

Ⅲ. 見学・実習生の受入状況

月	日	見学・実習生名
7	7/18～8/2	経専北海道保育専門学校未来学科3学年 実習生3名

IV. 研修の状況

1. 職場外研修の実施状況

月	日	研修名	開催地	派遣職員
4	4～5	令和5年度強度行動障害支援者養成研修	オンライン	E・T
	14	令和5年度後志知的障がい福祉協会総会	小樽市	O・H、I・M
	19	第1回支援研究委員会職員研修部会WEB会議	オンライン	M・T
	24～25	令和5年度強度行動障害支援者養成研修	オンライン	S・N、T・Y K・S
5	16	北海道栄養士後志支部令和5年度定期総会、研修会	岩内町	K・Y
	16	第2回支援研究委員会 職員研修部会対面会議	小樽市	U・Y
	24	西後志親の会 令和5年度定期総会	岩内町	O・H、I・M
	30	令和5年度自閉症援助技術研究会初任者研修会	オンライン	S・A、U・K
6	7	第3回支援研究委員会 職員研修部会対面会議	島牧村	M・T
	8	安全管理者講習	岩内町	M・T
	8	北海道サービス管理責任者研修	オンライン	H・S、S・R
	16～17	2023年度春期栄養士研修大会定期総会	札幌市	K・Y
	20	危機管理対策委員会	札幌市	O・H
	29	北海道知的障がい福祉協会 令和5年度定期総会	札幌市	O・H
	29、30	令和5年度全道施設長セミナー	札幌市	O・H、H・Y
7	7～28	相談支援従事者研修 eラーニング(サビ菅研修)	オンライン	F・M、M・A
	10	西後志親の会施設見学会(札幌高等養護学校)	札幌市	S・R、S・A U・Y
	12	第4回支援研究委員会 職員研修部会対面会議	古平町	M・T
8	1	令和5年度権利擁護セミナー	札幌市	Z・K、T・Y U・Y、N・N
	3	令和5年度岩宇地区自立支援協議会全体会	岩内町	O・H
	24	第5回支援研究委員会 職員研修部会対面会議	古平町	M・T
	29	令和5年住宅・土地統計調査の調査員説明会	岩内町	M・K
9	1	令和5年度 災害対策研修会	札幌市	M・A Z・K、K・Y
	6	第6回支援研究委員会 職員研修部会対面会議	小樽市	M・T
	8	令和5年度 後志知的障がい福祉協会職員研修会	小樽市	M・T、U・K K・N
	19	北海道サービス管理責任者研修	オンライン	F・M
	20	2023年度 接遇講習会	オンライン	S・N
	22	令和5年度防災業務関係者研修 (社会福祉施設等関係者向け)	倶知安町	H・Y
	22	令和5年度防災業務関係者研修 (放射線防護施設担当者向け)	岩内町	I・M、S・R
	23	令和5年度原子力防災連絡会	岩内町	O・H
10	6～9	自閉症支援実践セミナー2023	札幌市	S・A
	11	全国大会 2023	東京都	O・H
	11	第7回支援研究委員会 職員研修部会対面会議	岩内町	M・T
	13	令和5年度全道知的障がい関係職員研究大会	札幌市	S・R、F・M S・R、K・Y

	17	株式会社3eee 施設見学	江別市	O・H、I・M H・Y、F・M M・T、I・T
	19	北海道サービス管理責任者研修	札幌市	M・A
	1～31	組織力を高めるフォローアップ(eラーニング)	オンライン	U・Y
11	6	利用者研修会実施のための職員研修会	札幌市	H・S、N・K
	9	社会福祉法人雪の聖母園施設見学	月形町	O・H、M・K H・Y、S・R M・A、T・D T・M、N・K
	18、25	「傾聴力」養成講座スキルアップ研修	オンライン	N・N
	15	第8回支援研究委員会 職員研修部会対面会議	オンライン	M・T
	22～ 12/22	国立のぞみの園セミナー2023 認知症またはその疑いのある知的障害者への支援	オンライン	F・M
12	6	第9回支援研究委員会 WEB 会議	オンライン	M・T
	8	令和5年度後志知的障がい福祉協会 権利擁護研修	オンライン	U・Y
	11	令和5年度障がい者虐待・権利擁護研及び 後志圏域相談員研修	倶知安町	H・Y
	11、19	リスクマネージャー養成講座 2023	オンライン	S・R
	12	令和5年度幹部職員研修会	札幌市	O・H、H・Y M・A、T・D
	22	令和5年度第2回運営研究委員会	小樽市	O・H
1	10	第10回支援研究委員会 WEB 会議	オンライン	M・T
	18、19	令和5年度障害者支援施設部会全国大会	沖縄県	M・A、Z・K
2	13	令和5年度北海道障がい者虐待防止・権利擁護研修	オンライン	M・K、H・Y
	14	第11回支援研究委員会 WEB 会議	オンライン	M・T
	19、20	令和5年度 全道施設長研修会	札幌市	O・H、H・S
	27	分かりやすい説明の仕方研修	オンライン	M・T
3	11	令和6年度障害福祉サービス等報酬改定セミナー	オンライン	H・Y
	14	令和5年度 支援研事業報告・計画会議	小樽市	M・T
	27	栄養アセスメント勉強会	オンライン	K・Y

2. 職場内研修の実施状況

月 日	テーマ	講 師	参加人員
5/8	車椅子車両使用方法 車椅子の使用方法について	O 作業療法士	11 名
5/12 5/19 5/23	高齢者研修 (紙パンツ交換、車椅子、ベッドへの移乗)	S 看護師、O 看護師 O 作業療法士、F・M	36 名
6/15	高齢者研修(高齢化とは)	O 作業療法士	13 名
10/18	防犯研修	岩内警察署	18 名
2/22	基礎救急救命講習	岩内消防署	24 名
2/29	高齢者研修(摂食・嚥下の基礎知識)	O 作業療法士、F・M	23 名
3/7	虐待防止権利擁護伝達研修	GH 職員代表	18 名
			合計 143 名

V. 年間行事の実施状況

月	日	行事名	月	日	行事名
4	20	開園記念行事	10	23 24	ハロウィン行事 ランチ会
5	4 25～26 31	映画観賞会 一泊旅行(札幌市) ランチ会	11	16 28	焼いも会 ランチ会
6	2、19 9、16 27	日帰り旅行(小樽市) 日帰り旅行(余市町) バーベキュー	12	15	クリスマス会
7	7～9 21	岩内祭り 縁日祭	1	26	新年会
8	17 22	ビアガーデン・花火大会 ランチ会	2	16 16	バレンタイン行事 ランチ会
9	13	バーベキュー	3	1 1	ひな祭り ランチ会

VI. 生活支援の実施状況

1. 社会生活活動について

- ・月に1回の頻度で昼食を伴う買い物を実施した他、町内の新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスの感染状況に応じて、昼食を伴わない買い物も行った。また、職員代行での買い物やオンラインショッピングを利用している。
- ・利用者の方が活動に参加した際、記録管理システム(クレヨン)へ確実に記録する事で個別の参加状況を細かく把握できる様に取り組んだ。

2. サークル・コンサート鑑賞の実施状況

サークル・コンサート名	実施場所	実施日時	利用者登録	年間実施回数
ハンドメイドサークル	施設内	月1回程度	5～6名	10回

3. 避難訓練の実施状況

月 日	訓練の種類	訓練の内容	利用者参加人数	年間実施回数
6/15	自主訓練	夜間避難訓練	46名	6回
8/28	消防訓練	避難訓練・通報訓練、消火訓練	54名	
10/16	自主訓練	地震を想定した訓練	53名	
10/25	原子力防災訓練	原子力災害を想定した 広域避難訓練	職員対象	
2/26	自主訓練	火災を想定した避難訓練	53名	
3/22	自主訓練	地震・土砂災害を想定した避難訓練	44名	

4. 建物や設備の整備について

- ・中央競馬馬主社会福祉財団からの助成を受け、地域支援センター（ぽのっと）のトイレを車椅子対応の多目的トイレに改修している。
- ・大友福祉振興財団から助成を受け、地域支援センター（ぽのっと）で使用する備品として高さを調節できるテーブル4台、椅子8脚を購入している。

5. 生活棟（別棟）えみしあの運用について

生活棟（別棟）えみしあで利用者の方の入替えを行う中で高齢者に限らず、個々の特性に応じた利用者が生活できる環境とした。令和6年度4月以降は、GHに事業内容を切り替え、地域移行の場としても運用していく。

6. 通院や入院への対応について

今年度は男性3名、女性1名の方が、身体機能の低下や医療的治療が必要で入院となった。80代男性1名は認知症と身体機能の低下で8月に入院し、老衰の為、11月に逝去している。

令和4年12月から入院されている女性1名はレビー小体型認知症と診断を受けていたが、6月に退院されており、現在はリハビリ外来を受診しながら生活している。

今後も通院や入院に至るケースについて、学園とご家族とで連携を図りながら慎重に進めていく。

7. 新型コロナウイルス感染症への対応について

新型コロナウイルスが5月8日から「5類感染症」に移行したことから、あけぼの学園においても利用者の検温回数を1日1回に変更し、帰省時の健康観察記録の記入を廃止するなど対応を緩和している。毎日の体調管理は継続しており、熱発等の症状がある場合は、状況に応じて抗原検査キットの使用や通院を行っている。7月に6回目の新型コロナワクチン接種、11月に7回目の新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンの同時接種を行っている。

9月から11月にかけて、利用者2名、職員3名が罹患している。1月11日から利用者32名、職員17名が集団感染し、2月9日に終息している。

あけぼの学園では、今回の集団感染の発生を踏まえ、衛生用品の確保、マニュアル等の整備、職員による防護服着用の実践研修を実施し、感染拡大防止に対応できる体制づくりを行った。職員についてはマスク着用を徹底した中での支援とし、健康管理を継続している。更に職員本人や同居家族が罹患した場合や有症状時の対応策を職員全体で共有し、感染予防に努めた。今後も感染症対策に努めた支援を行う。

8. リハビリ支援について

医師の指示の下、リハビリが必要であると診断を受けた利用者の方を対象に、作業療法士が中心となりリハビリを実践している。また、必要に応じて、リハビリ外来を受診してリハビリ療法を受けている。

医師の指示の下、個々に合わせたプログラムを作業療法士が組み立て、支援ワーカーや看護師が連携して機能訓練を行った。今後も利用者個々の身体機能や生活状況を把握しながら専門的な支援を行う。

9.行事の実施について

今年度はウイングベイ小樽や余市イオンでのショッピングに分かれ日帰り旅行を実施し、一泊旅行は札幌市内でショッピングを楽しんでいる。その他、昨年同様に利用者の方が園内で楽しめる行事として、縁日祭やビアガーデン・花火大会などを行った。

身体機能の低下もあり、外出が難しくなっているが、今後も学園内で楽しむことの出来る行事を職員が企画し、利用者の皆さんに参加していただく。

10.学校との連携と将来的な人材確保について

経専北海道保育専門学校の実習生3名の受け入れを行っている。今後も積極的に実習生を受け入れながら、地域との交流やPR活動を行い、将来的な人材確保に努めていく。

11. 広域避難訓練の実施について

原子力災害における原子力防災訓練を10月25日に実施した。今回は通信訓練と伊達太陽の園への広域避難訓練(職員3名)を行った。次年度も引き続き訓練を行い、有事の際に備えることとする。

12. グループホーム ラフォーレの支援について

生活拠点であるグループホームと情報を共有し出来る限りのバックアップを行った。今後もグループホームと連携を図りながら、利用者の方が落ち着いて生活することができるよう支援する。

13. 在宅(通所)利用者の支援について

通所利用者の過ごす場所は学園内とえみしあ棟内としており、散歩や日中活動を提供した他、レクリエーションとしておやつ作りを行った。

令和6年度は地域支援センター(ぽのっと)を通所利用者の生活介護サービス提供場所とし、より特性に合わせた支援を行っていく。

また、サンライズの生活介護利用者の方と合同活動を定期的実施し、交流を深めながら楽しく参加することが出来た。

14. 記録管理システムについて

記録管理システムを活用し、利用者の方の日常生活状況をきめ細かく把握し記録することを徹底し、そのデータを健康管理や個別ケース等の支援に活用した。

また、蓄積されたデータを活用しモニタリングやアセスメント(評価)を行い、利用者の方の個別支援計画(ケアプラン)を策定した。

15. 障がい者虐待防止について

障害者虐待防止法を順守し、施設内における虐待防止委員会を毎月開催した。また、虐待防止に関わる施設内研修、オンライン研修への参加を行った。更に、職員は支援項目を確認するチェックシートの実施、利用者の方については利用者自治会(はばたけ会)を通して虐待についての説明を行った。

16. 利用料収入と支援スタッフの確保について

国や利用者から支払われる一般的な支援費のほか、重度障がい者支援加算や人員配置体制加算、夜勤職員配置体制加算などを活用し、施設の収入財源を確保したうえで、国が定める一定の配置基準以上(今年度実績は利用者1.7名に対して支援スタッフ1名以上)の支援スタッフにより、利用者に対する日々の支援サービスを提供することが出来た。

夜間はあけぼの学園本体に職員3名、生活棟別棟(えみしあ棟)にも夜勤職員1名を配置し、夜間専門職員と日中支援職員とで協力して支援にあたった。

職員の採用について、地元出身者を含めた3名や新規採用職員の確保が困難な状況から、人材派遣会社を通して職員1名を採用した。

VII. 食事提供業務の状況

1. 新型コロナウイルス感染症に配慮した食事提供

新型コロナウイルスが5月8日から「5類感染症」に移行したことから、男女利用者の時間差での食事対応を緩和し、職員も利用者の方と一緒に食事を摂っている。

2. 選択食、希望食の実施

複数の料理からその場で好きな方を選択する献立、メニューブックを参考にして自分の食べたい料理を自由にリクエストし、それを献立に反映させた。更に、毎月実施するはばたけ会(利用者自治会)の中で利用者の方からの要望を聞き、行事食等に反映させた。また、通所利用者の方を対象におやつ作りを行い、喫食を楽しんだ。

3. 行事食、野外での食事会の実施

感染症対策を行いながら、毎月のランチ会、開園記念日、新年会などの行事食のほか、野外での食事会(炭火でのバーベキュー)を行った。

4. 特別食、エネルギー制限食の提供

腎臓疾患、糖尿病の利用者の方への特別食の提供、咀嚼、嚥下機能が困難である利用者の方への数種類に分けた刻み食の提供など、利用者の方の健康状態、嚥下機能に合わせた食事の提供を行った。

また、個人の年齢、体型、運動量、代謝量などを考え、通常の1,800kcalの食事のほか、若年層男女の2,000kcal、さらに1,600kcal、1,460kcal、1,200kcalの食事提供区分を設定し、利用者の方の健康に配慮した。

VIII. 健康管理の実施状況

1. 日常生活における予防及び衛生

①生活習慣、感染症対策として、うがい、手洗い及び手指消毒、外出時はマスク着用を行った。

また、感染症対策から洗面所や出入り口にはアルコール消毒液を常設、エアージェットの使用は再開している。

②入浴時は全身の怪我や皮膚の状態を観察し、異常があれば看護師へ報告し迅速に対応するよう努めた。

2. 住環境の清潔と感染性疾患の予防

①感染症予防対策として、トイレの消毒、全館の消毒を毎日実施した。

②ハセツパー水(除菌・消臭効果のある微酸性次亜塩素酸水)に対応した噴霧器を男女各棟、えみしあ棟のDルームに設置することで感染症の予防に努め、併せて加湿器も設置し温度及び湿度の調整に心掛けた。

③アルコール消毒液を各棟、玄関に設置し、手指消毒に努めた。

④正面玄関や職員玄関に検温器を設置した。

3. 日常の健康管理

- ①検温を1日1回毎朝測定している。異常のあるときは通院を行い、軽易の症状であれば常備薬で対応した。また、新型コロナウイルス感染症の対応で、37.0℃以上の発熱等の症状があった際は、対応マニュアルに沿って迅速に対応することとし、病院へ受診、PCR検査を実施した。更に、発熱はなくても、風邪症状がある場合や感染者との接触疑いがある場合、抗原検査キットを積極的に活用した。
また、状況については、看護記録に記載するとともに記録システム(クレヨン)に詳細な記録をとった。
- ②全利用者さんを対象に月2回体重測定を行った。また、体重の推移を細かくチェックする必要がある利用者の方については、毎週体重測定を行った。
- ③50歳以上の方と高血圧、呼吸器疾患、循環器症状のある方については、毎日血圧測定と血中酸素濃度を測定し、50歳以下の方に対しては、週1回血圧測定を実施した。数値が安定しない利用者の方に対しては通院を行い、状況や様子については健康管理委員会や各ケース会議で協議した。また、肥満防止、機能維持のために、食事量の検討、散歩、リハビリや体操などを行った。
- ④嚥下困難な利用者の方に対して「健口体操」を継続して行った。更に嚥下機能の低下が顕著となった利用者の方については、看護師、栄養士、作業療法士、支援ワーカーが観察、評価を行うことで、食事形態や支援内容の見直しを図り、医療機関への受診も行った。
- ⑤男女各棟やえみしあ棟を巡回し、利用者の方の健康状態をチェックした。
- ⑥インフルエンザの予防接種を行った。
- ⑦新型コロナウイルスのワクチン接種を2回行った。
- ⑧新型コロナウイルスの継続的な感染症対策として、支援ワーカーへ感染症対策における防護服着用の実演を新規採用職員に対して行った。
感染状況によっては、職員や利用者に注意喚起を促すと共に衛生用品や抗原検査キット等の備蓄管理を行った。

4. 健康診断の実施と各種検診の受診

- ①施設で実施する年2回の健康診断は実施しており、身元引受人の了解を頂き、血液検査による癌検診(血液マーカー検査)、便採取による大腸がん検診を実施した。
- ②町内の歯科医院で治療が可能な利用者の方については町内で治療を行っている。

5. 感染症罹患患者への対応について

インフルエンザについては、11月に7名の利用者が罹患している。

IX. 苦情解決について

苦情解決第三者委員会を年2回(7月5日、12月15日)に実施している。身元引受人も含めた苦情4件、意見・要望5件、計9件であった。12月はクリスマス会の前に法人苦情解決委員会を開催し、苦情、意見、要望について報告させて頂き、クリスマス会にもご参加頂いた。

また、毎月行う利用者自治会の会議等の中で、利用者の方からの要望が何点か聞かれたが、軽微な要望であった為、これについてはその都度解決した。

X. 日中活動支援の状況

日中活動区分	生活介護(入所)	生活介護(通所)	生活介護(合計)	サンライズ(通所)
人数	49名	9名	58名	1名

1. 日中活動グループの状況について(令和6年3月31日現在) ※○印は活動グループ運営責任者

活動グループ名		令和5年度日中活動編成				
		利 用 者 名			在籍数	運営責任者
生活介護	生活介護 Ⅰ (いきいき)	I・Kさん	S・Yさん	O・Rさん	4名	○N・S O・K I・T
		M・Tさん				
	生活介護 Ⅱ (のびのび)	N・Rさん	T・Mさん	T・Tさん	21名	○F・M O・K M・T T・M K・M
		K・Kさん	Y・Tさん	N・Hさん		
		Y・Hさん	K・Sさん	H・Eさん		
		T・kさん	T・Tさん	W・Tさん		
		K・Yさん	S・Kさん	Y・Tさん		
		S・Sさん	I・Rさん	W・Aさん		
		T・Kさん	K・Kさん	S・Kさん		
	生活介護 Ⅲ (創作活動)	M・Sさん	S・Hさん	T・Kさん	10名	○N・K Z・K
		K・Kさん	N・Yさん	E・Hさん		
		N・Kさん	D・Hさん	N・Kさん		
		D・Hさん				
	生活介護 Ⅳ (個別支援)	K・Hさん	T・Tさん	A・Sさん	12名	○M・A U・K S・A
		I・Hさん	O・Sさん	I・Gさん		
		S・Kさん	K・Tさん	H・Hさん		
		K・Kさん	S・Mさん	K・Aさん		
	生活介護 Ⅴ (しいたけ)	M・Mさん	M・Mさん	Y・Mさん	11名	○M・Y U・Y
		U・Kさん	M・Hさん	H・Yさん		
		K・Yさん	I・Hさん	A・Tさん		
		N・Kさん	I・Mさん			

※個人情報の取り扱いにご配慮くださいますようお願いいたします。

2. 各グループの活動状況について

生活介護 I (いきいき) グループ

○目標 (重点目標)

- ・楽しんで活動に参加出来るように個々に応じた個別課題等を設定する。
- ・身体機能維持に向けたリハビリテーションを充実させ提供し健康維持に努める。
- ・色々なレクリエーションを実施し、心身ともにリフレッシュを図る。

○どのような取り組みを行うか

- ①利用者の方が好む個別課題を提供する。

- ②検温と血圧を測定して、活動中も利用者の方の健康状態などに留意した上で活動を提供する。
個別にリハビリテーションを提供し、無理のない身体機能維持に努め、新たなリハビリテーションの提供をする。
- ③レクリエーションを実施し、活動への意欲向上とリフレッシュに繋げる。

○後期の取り組みに対する評価

- ①入浴をしたい方は活動中に入浴支援を行いながら、個別課題としてパズルや小さな穴に棒を通す等、指先の運動、マッチング、編み物作成、塗り絵等個々の特性に合わせた活動を提供しており、意欲を持って取り組んでいた。
- ②活動前に検温・血圧・血中酸素濃度を測定し、健康状態等に留意した上で活動しており、活動中に大きく体調を崩す利用者の方は見られなかった。身体機能維持運動として一部の利用者の方にフットエナジーを取り入れており、著しい身体機能の低下は見られていない。
- ③10月にのびのびグループとの合同レクリエーションとして、鍋の提供を行いながら会食を実施している。利用者の皆様は楽しんで過ごされていた。

生活介護Ⅱ(のびのび)グループ

○目標(重点目標)

- ・一人ひとりが楽しみをもって参加出来るよう、活動内容を設定しつつ、その方にとって必要な機能維持やストレスの軽減を図り、落ち着いた生活を送る事が出来るよう支援します。

○どのような取り組みを行うか

- ①心身の機能に併せた好む活動(個別課題・軽運動・機能維持に向けたリハビリテーション等)を提供する。
- ②活動中は利用者の方の心身の健康状態などに留意した上で活動内容を提供する。
- ③屋内外周辺の散歩を取り入れ、気分転換を図る。
- ④活動メンバーが増え、全体での活動提供が困難となり、ゆとりをもった環境で活動が取り組めるよう「身体機能維持や個別課題」と「入浴」の2グループに分け、安定した活動提供をする。
- ⑤身体的、精神的特性により、1人での入浴が困難な方に対して、活動内で入浴支援を行い、気持ちのリフレッシュを図る。
- ⑥定期的にレクリエーションを提供し、活動への意欲向上及び気持ちのリフレッシュを図る。

○後期の取り組みに対する評価

- ①一人ひとりの得意分野を活かし活動メニューを定めた上で実施内容を決めており、活動を拒否する方もなく取り組んでいた。
- ②高齢の方や体力の低下が見られる利用者の方も複数いる為、その日の精神状態や特性に応じて活動内容に配慮しており、活動中の体調不良者は見られなかった。
- ③男女一緒に散歩へ出かける機会を設けており、気分転換に繋げることができた。しかし、配置職員が少ない際は屋外への散歩が難しく、屋内の歩行訓練に変更している。
- ④ゆとりをもった環境で活動が取り組めるよう「身体機能維持や個別課題」と「入浴」の2グループに分けて活動提供することで落ち着いた雰囲気の中で活動に取り組んでいた。
- ⑤身体的、精神的特性により1人での入浴が困難な方に対して、安定的に提供ができるよう以前は週に2回入浴提供を行っていたが、今年度からは「身体機能維持や個別課題」と「入浴」の2グループに分けて実施した為、安定して入浴支援が行えた。
- ⑥感染対策を徹底し11月と12月に2グループに分け、いきいきグループと合同でレクリエーションを行っている。鍋とデザートを食べており、利用者の方も表情良く楽しそうに参加できていた。前期は1名の利用者の方が気分の落ち込みからか参加拒否があったが、今回は全利用者の方が参加することができている。

生活介護Ⅲ(創作活動)グループ

○目標(重点目標)

- ・楽しんで活動に参加できるように個々に応じた創作活動や個別課題を提供する。
- ・リフレッシュを図る為、レクリエーションを提供する。

○どのような取組みを行うか

- ①個々の好きな活動(ハサミや塗り絵)を提供しながら、季節や行事に応じた創作活動を提供する。
また、特性に応じて個別課題を提供する。完成した作品については学園内に展示することで創作意欲の向上に繋げる。
- ②レクリエーションを実施することで、心身のリフレッシュを図る。

○後期の取組みに対する評価

- ①毎月、季節に応じた作品作りを行っており、作った作品は食堂に掲示した。食堂に掲示することで職員や他の利用者の方の目に触れ、創作意欲のモチベーションに繋げることが出来た。また、2月には卒業生を励ます会のプレゼント作り(手作り石鹸)を行っている。その都度、利用者の方から好きな活動(好きな内容や素材、色等)を聞き取りしながら、楽しめる活動を提供出来た。個別課題についてはその方が好むものやスキルにあったものを提供している。飽きが無いように様々なものを提供し、付き添い促すことで最後まで取り組むことができていた。
行事担当と連携を図りながら、季節に合わせた飾り作りを行っている。また、9月にはみんなあーとへ作品を出展している。個々の好きな活動(好きな素材や色等)を聞き取りながら作品作りを行っており、楽しく活動することができた。
- ②11月にレクリエーションを予定していたが感染症(インフルエンザ)罹患者が増えた為、12月に変更している。レクリエーションの内容は利用者の方の希望に沿い、海鮮とお肉等好きなものが食べられるように手巻き寿司パーティを行っている。ネタも海鮮や卵、ツナ、からあげや納豆等、様々な食材が楽しめるように幅広く準備することで利用者の方からも好評であった。デザートもゼリーやヨーグルト、フルーツとバイキング形式にすることで好きなものを選ぶ楽しさを味わいながら食べることができた。食事場面で見守りが必要な利用者の方にも職員が付き添い、介助することで安全に食事をすることができた。利用者の方も意欲的に表情良く参加していた。

生活介護Ⅳ(個別支援)グループ

○目標(重点目標)

- ・TEACCHプログラムの理念を取り入れた支援を提供し、見通しの持てる活動を提供する。

○どのような取組みを行うか

- ①定期的に自立課題を更新する。また、落ち着いて活動に参加出来るよう活動スペースや休憩スペースの環境を状況に応じて調整する。
- ②その都度固執の変化に合わせ、生活場面と連携を図り、固執行動に対して支援のアプローチを行う。
- ③レクリエーションを実施する事で気分転換を図り活動意欲に繋げる。
- ④他施設や関係機関と事例検討や研修を行い支援に反映させる。

○後期の取組みに対する評価

- ①定期的に自立課題の更新や取り組み状況に合わせて内容の調整を行った。スペースについては、調整の必要がなくなった為、行っていない。
- ②前期に引き続き安全面に配慮し、居室で活動を提供する事で、活動時間外に活動棟へ向かう回数の軽減を図った。
(※活動棟内の物品に固執し、活動時間外に男子棟から活動棟へ向かってしまう利用者への支援について)活動、生活場面の切り替えが難しくなっており、現在は男子棟内に活動スペースを設けて取り組んでいる為、次年度以降は自立課題に取り組める時間の確保と活動棟への固執を逸ら

す事を目的とし、活動グループの変更を行う事となっている。

- ③2月に園内でレクリエーションを実施し、気分転換を図った。昼食にカレーライスとクレープを提供し、個々にトッピングを選べるようにすることで、今までよりも満足感が窺えた。
- ④10月に他施設の事例報告会に参加した。すぐに反映出来る内容ではなかったが、ひとつの例として参考にして今後に活かしていく。

生活介護V(しいたけ活動)グループ

○目標(重点目標)

- ・椎茸の品質の安定及び、個人や外部への安定した供給ができるように計画的な製造量の確保に努める。
- ・利用者の方の特性適した活動メニューを設定し、椎茸の栽培を通して活動に対する意欲向上に繋げる。
- ・レクリエーション活動を適宜に取り入れ健康増進、心身のリフレッシュに努める。
- ・委託作業(箱折り)は役割分担を行い、意欲的に取り組めるように努める。
- ・除雪期は身欠きにしんの箱折りを行う。

○どのような取り組みを行うか

- ①ビニールハウス内の温度や湿度を発生に適した状態を維持できるよう、送風機の使用、ほだ木への撒水等、気候に合わせて計画的に行う。
- ②椎茸の栽培に関わる活動(ほだ木の運搬、椎茸採取)を分担する事で活動に対する意欲を高める。活動後にハウス内、休憩室を清掃し環境を整える。
- ③レクリエーション活動を適宜行い、気分転換を図る。
- ④受託作業(箱作り)など、個々の得意分野を活かし役割を明確にすることで、活動に対する意欲を高める。
- ⑤降雪期の活動として、男女ともに身欠きにしんの箱折りを学園内で行う。

○後期の取り組みに対する評価

- ①10月頃から気温の低下により、薪ストーブを活用し温度調節していたが、発育する温度に達しなかった為、椎茸の発生が減少し安定した供給ができなかった。
- ②活動内容を事前に伝え明確にすることで混乱なく活動に取り組む事ができている。また、適宜休憩を取り、グループのメンバーと会話しながら楽しい雰囲気を作る事で活動に対する意欲を高める事ができている。
- ③レクリエーションは利用者の方の意見に沿って実施している。しゃぶしゃぶとすき焼きを調理から行い、楽しい雰囲気でご会食している。
- ④身欠きにしんの箱折り作業は、積み立て、積み重ね、仕分け等、特性に配慮しながら役割分担する事でスムーズに規定数量を行う事ができている。また、活動中は利用者の方が好きな音楽をかけながらリラックスして取り組める環境を作り、意欲を持って活動に参加できていた。
- ⑤1月に感染症(コロナウイルス)罹患者が増え、活動が休止となった。身欠きにしんの箱折りにおいても、安定した納品はできなかったが、除雪期の活動として、作業に専念する事ができていた。